

栄光

知っておきたいキリスト教のことば (23)

聖公会の礼拝の中には、神さまの栄光を賛美する言葉(歌)があります。例えば「大栄光の歌」と呼ばれるものがそれです。「いと高きところには神に栄光～」から始まるこの歌は、聖餐式の最初の方で唱えられます。

また「頌栄(ドクソロジー)」を唱える場面も多くみられます。朝・夕の礼拝の詩編のあとや賛歌のあと、また主の祈りの最後に「栄光は、父と子と聖霊に、初めのように今も、代々に限りなく アーメン」と唱えるのです。(ちなみにローマカトリック教会では主の祈りのあとに頌栄は唱えません)



それでは「栄光」とは何なのでしょう。広辞苑を調べてみますと、「輝かしい誉れ、光栄、名誉」、「幸いを約束する光」という意味がでてきます。そして聖書の中では、神さまやキリストの栄光が強調されていることに気づかれます。

マタイ、マルコ、ルカ福音書において、キリストは栄光のうちに再び来られる(再臨)ことが待ち望まれています。またヨハネ福音書では、キリストはその生涯すべて、そして十字架と復活も含めて、栄光に包まれていることを伝えています。

その栄光とは、クリスチャンにとって救いの到達点であるとも言えるでしょう。神さまの栄光に照らされながら、わたしたち一人ひとりがその救いの中に入れられるのです。

パウロの手紙には次のような言葉があります。(フィリピ3:21)

キリストは、万物を支配下に置くことさえできる力によって、わたしたちの卑しい体を、御自分の栄光ある体と同じ形に変えてくださるのです。

この言葉を信じ、神さまに栄光を帰していきましょう。

次回は「英国国教会」です。お楽しみに。